

|   |                              |  |
|---|------------------------------|--|
| 平成 21 年度 シラバス   | 学年・期間・区分                     | 2年次・前期・選択  |
|   | 対象学科・専攻                      | 土木工学専攻   |
| 都市計画演習<br>(Practice of City Planning)   | 担当教員                         | 内田 一平 (Uchida, Ippei)  |
|   | 教員室                          | 土木工学科棟2階 (Tel. 42-9117)  |
|   | E-Mail                       | uchida@kagoshima-ct.ac.jp  |
| 教育形態 / 単位数  | 演習 / 1単位                     |  |
| 週あたりの学習時間と回数  | 〔授業(100分) + 自学自習(50分)] × 15回 |  |
| 〔本科目の目標〕<br>身近な環境のなかで具体的に計画対象地域(霧島市の一部(旧国分市または旧隼人町))を設定し、環境、構造、計画に関する理論を基礎に社会的・地理的・空間的・歴史的な観点から調査し、地域の特質と問題点を分析した上で、その地域にふさわしい将来計画をまとめ、設計図書やコンピュータ画像として完成させ表現させる。本演習は、主に計画の基礎となる調査・解析手法の修得と論理的思考の鍛錬およびプレゼンテーション能力の向上を目的とする。 |                              |  |
| 〔本科目の位置付け〕<br>都市計画演習は、都市計画(本科4年次開講)および都市計画特論および都市環境に関連する分野の講義科目で修得した内容を総合化することを目標としている。また、本科目はグループによるマスタープランの擬似的策定過程を体験することからPBLとしての要素を含む。  |                              |  |
| 〔学習上の留意点〕<br>毎回、時間の初めにその日にやることの方針等を議論し、時間の終わりに成果のチェックを行う。演習で用いる基礎資料および基礎データは年度当初に予め教官側で用意しておくが、調査内容により諸君に現地踏査や資料収集をしてもらう機会が出てくると思われるので、そのときは十分に注意し行動すること。<br>また、調査に必要なデジタルカメラ、ボイスレコーダなどは担当教員側で用意する。                         |                              |  |
| 〔授業の内容〕   |                              |  |
| 授 業 項 目   | 時限数                          | 授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標  |
| 1. イントロダクション  | 2                            | 演習課題を十分理解し、対象地域の選択をする。<br>マスタープラン立案にあたって、必要作業工程を立案できる。   |
| 2. 各種データの読み込みと分析  | 10                           | 公の統計データの種類を把握し、主要な統計に関して内容を説明できる。<br>各種統計データや書籍などを用いて、対象地域の都市像を把握できる。<br>統計処理の方法を適切に使用することができる。<br>対象地域の都市構造(土地利用・都市施設)を把握できる。<br>場合によっては、フィールド調査もすることがある。 |
| 3. 都市計画課題の抽出  | 4                            | 授業項目2の結果から都市問題を抽出することができる。<br>KJ法を用いて、グループ討議ができる。<br>対象地域のマスタープランにおけるキャッチフレーズを立案できる。<br>対象地域のマスタープランにおける目標人口が設定できる。  |
| 4. 中間発表会  | 2                            | 授業要目2~3の事柄に関してまとめ、現状都市の抱える都市問題を的確に説明ができ、加えて20年後の都市に対してキャッチフレーズと目標人口について発表することができる。<br>PPTを用いて、適切にプレゼンテーション資料を作成できる。<br>欧米型の報告書作成方法を理解し、応用できる。              |
| 5. マスタープランの策定   | 10                           | 都市計画マスタープランの策定過程を理解し、準じた形式で実行できる。<br>授業項目4であげた都市問題とキャッチフレーズとの乖離をうめる、都市計画的施策を立案できる。   |
| 6. 最終発表会  | 2                            | 授業項目3~5の事柄についてまとめ、キャッチフレーズにあった都市施策を発表できる。<br>PPTを用いて、適切にプレゼンテーション資料を作成できる。<br>欧米型の報告書作成方法を理解し、応用できる。   |
| 〔教科書〕 都市計画教科書、中出文平+都市計画教育研究会、彰国社  |                              |  |
| 〔参考書・補助教材〕 授業時配布プリント(演習内容の要旨・ファイルを用意すること)   |                              |  |
| 〔成績評価の基準〕 平常点(50%) + 最終成果物(30%) + 発表能力(20%)   |                              |  |
| 〔専攻科課程の学習教育目標との関連〕 3-3  |                              |  |
| 〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 3-3   |                              |  |
| 〔JABEEとの関連〕 (d)(2)c)  |                              |  |